

113 學年度第一學期 Eurasia 基金會(from Asia)國際講座  
第七期「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次(5)

テーマ：テキストから見た日台表現の差異

李宗禾  
(2024.10.17)

要旨

テキスト言語学は、統語規則を超えた内容を探求する学問であり、その主な研究領域には談話分析とテキスト研究が含まれる。有意義なテキストには、明確なコミュニケーション目的が必要であり、規範内の文法規則に従い、合理的な接続関係や明確な全体構造のもとで完全な情報を伝達することが求められるという。また、実際に運用する際には、言語形式とその使用における社会的・心理的要因や文脈との関係に配慮する必要がある。日常生活において、たとえ母語を使用して表現する場合でも、思考の混乱や表現の論理性の欠如を完全に避けることは困難である。特に、外国語で長文のコミュニケーションを行う場合、それはさらに大きな挑戦となると言えよう。

この講座では、上述の文章論の観点から、日台間の言語文化における表現の違いを紹介する。具体的な例を通じて、学生が普段慣れ親しんでいる表現習慣を見直すよう促すとともに、日本語の表現方法に対する理解を深め、さらに異文化間コミュニケーション能力の向上に向けた考察の素材を提供することを目指している。

一、テキストとは何か

テキストというと通常、一つの文章を思い浮かべるかもしれないが、学術研究において「いわゆるテキストの最小単位は一つの節」と定義されている。例えば、文章の中の一文や、さまざまな詩歌の中の一節、さらにはマクドナルドの「i'm loving' it」といった誰もが知っているCMのキャッチフレーズなど、意味のある内容であり、表現の目的があるものはすべてテキストと見なすことができるという。

会話においては、また異なる形で表現される。例えば、火事が発生した時に日本人は「火事だ」と言い、たった一言でも十分に意味を伝えることができる。また、日常生活における複数の文が集まった会話も一種のテキストと言える。

テキストは散文でもよければ、韻文でも良い。さらに書き言葉や話し言葉、自問自答、複数の人による会話、ことわざ、台本、助けを求める叫び声、シンポジウムでの議論など、さまざまな形式が存在し、その範囲は非常に広いという。

## 二、テキストによる文章の研究

この部分では文章論のアプローチを用い、実際に学生の作文の中に出てきた日台言語文化における表現の差異を検討していく。

### 1. 情報の構造

台湾の学生は、中国語の使用習慣の影響を受けて、日本語を使う際に無意識に過剰な接続詞を加えてしまうようである。この問題を改善するのに、以下の方法が有効である。

接続表現 多個句子是如何彼此連結並展開文脈多くの文は如何に接続し、文を展開していくのか

接続方法：接続詞、副詞(たとえば)、接続助詞(から、ので)等

指示機能 文章における指示

接続方法：「コソアド」(コ系、ソ系)を中心に

重複機能 語彙の反復

接続方法：同一語彙/上位語-下位語/類義語

### 2. 視点の選択

台湾の学生は作文を書く際、前後の文が異なる人物の視点で述べられることが多いようである。従って読者はその都度、誰の視点で語られているのかを判断しなければならないという困難があるようである。視点を統一する必要がある。台湾語と日本語の違いは以下のようなになる。

中国語：動作主

日本語：第一人稱>第二人稱>第三人稱

とりわけ注意すべき点は日本語の受身文(例：「彼女に「別れよう」と言われた。」)は中国語では動作をする人は主語になるのである(例：「我女朋友跟我說：我們分手吧」)。

### 3. 情報の配置

日本のニュース報道では、既知の情報(旧情報)を主語の前に置き、文の後半に未知の情報(新情報)を入れる習慣がある。これにより、文を簡潔で力強く見せるだけでなく、読者に注目すべき部分が文の後半にあることをすぐに伝えることができる。

一方、台湾のニュース報道には決まった形式がなく、通常は出来事の経緯を説明し、新旧情報が混在しているようである。読者は自ら重点を判断する必要

がある。台湾の学生が作文を書く際にも、同じような傾向が見られる。このように書くと、文章が冗長になり、どこが重要なかがわかりにくくなる。

#### 4. 文章の構造(論説文を例として)

学生の作文では、時々前後の文が矛盾していたり、唐突に結論を下す場合があるようである。このような欠点を改善するには、文章の構造を学び、自分が書いた文章が論理的に整っているか否かを確認することが必要である。この点に関して、日台の言語には以下の理論がある。

中国語:開門見山法、層層推進法、對比論證法……。

日本語:序論 - 本論 - 結論

背景の説明 - 問題提出 - 事実+意見 - 結論

以上四つの視点を通して今後作文を書く際にテキストの規範に合っているか否かを考え、より日本語の言語習慣に沿う文章を書くことができるだろう。

### 三、テキスト表現と文化

テキスト研究は談話分析でもある。この部分では具体例を挙げて、日台間の言語文化における表現の違いを探討していく。

談話分析とテキスト研究の最大の違いは、言語そのものに加えて、対象、文脈、場面、媒介など周囲の要素も考慮する必要がある点である。さらに、沈黙の時間や場面も研究の一部となる。

#### 1. 対象

日本語では話の相手が異なることによって話し方も異なってくる。例えば「不好意思/對不起」は普通、「すみません」「申し訳ない」を言うが、家族に対しては言わず、その代わりに「ごめんね/悪い」を言うのである。

#### 2. 文脈

会話は簡潔を求め、相手が理解できるようにすれば良いのである。時には、前後の文脈を見ないと理解できないような表現が出てくることもある。しかし、対話が成立するのは、前後の文脈があつてこそ、双方が理解できるからである。

#### 3. 場面

日本人は話をあまり明確にしない思考スタイルを持っているため、「暗黙の了解」という文化、つまり「察しの文化」は、外国人にとって日本人が理解しづらいつと感じることがしばしばある。

日本語のような「高コンテキスト文化」に順応し、言外の意味を聞き取って、日本人からのメッセージに対して適切な反応をすることは、談話分析においては日台の言語文化の違いを最も明らかにしたい部分です。

#### 4. 媒介

異なる方法で伝えると、注意すべき点も異なる。たとえば、話し言葉を使っ

て電子メールを書くと、相手に誤解を与える可能性がある。なぜなら、メールでは対面のように随時補足説明をしたり、相手の疑問に答えたりすることができないからである。

#### 四、結論

テキスト研究の最終目的は、学生たちに言語能力、聴く能力、問題解決能力、文化への感受性と開放性、文化知識、そしてグローバルな視野を持たせることにある。これにより、異文化間コミュニケーションの人材を育成し、日台双方の交流がより円滑になることを目指している。

中国語要旨・まとめ 鍾季儒

日本語翻訳 陳順益

2024. 10. 21